

実務経歴書 記入例

実務経歴書 記入要領 (申請者)

第一号の二書式(第一条の五関係) (A4)

実務経歴書

[記入注意] この実務経歴書は勤務先(自営業を含む)毎に作成し、今までの建築に関する実務の経歴について登録に必要な業務内容を年代順に記入してください。なお、記載内容の記入不備や疑義が生じた場合、再提出や追加書類の提出を求めることになり、登録が遅れる場合があります。また、虚偽の実務経歴を記載した場合、建築士法上の措置や登録が認められない場合もあります。

私は、一級建築士の免許を受けたいので、建築実務の経歴を下記の通り記載し、併せて第三者が当該書類の内容が事実と相違ないことを確認したことを証する実務経歴証明書提出します。
私は、下記事項が真実で、かつ正確であることを誓います。

① 令和〇〇年 〇〇月 〇〇日

国土交通大臣 殿
中央指定登録機関
公益社団法人日本建築士会連合会

② 氏名 建築士郎

勤務先等

③ 勤務先(部課名まで)		④ 所在地(番地まで)		⑤ 在職期間の合計	
株式会社〇〇建築設計事務所 〇〇部 〇〇課		〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇〇番地		年月～年月	年月数
				H28年 4月～ R4年 8月	6年 5月
⑥ 在職期間		⑦ 地位職名		⑧ 建築実務の内容(建築士法施行規則第一条の二)	
年月～年月	年月数				
R2年12月～R4年7月	1年 8月	技師・主任		建築物の設計に関する実務	
R2年8月～R2年11月	0年 4月	技師		建築物の工事監理に関する実務	
年 月～ 年 月	年 月				
建築実務の詳細(直近の実務から新しい順に記入)				⑨ 建築実務経験期間の合計	
				2年 0月	
⑩ 対象物件の名称等		⑪ 対象物件の所在地		⑫ 建築実務経験期間	
				年月～年月	年月数
〇〇病院		〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇〇番地		R4年 4月～R4年 7月	0年 4月
				建築実務の割合	年月数
				100 %	0年 4月
⑬ 実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)					
〔 1C-02 〕					
病院(鉄筋コンクリート造3階建て、延べ面積2,500㎡)の基本設計業務において、関係法令のチェックや各種インフラ整理、必要諸室・規模の検討等の設計と条件の整理を担当した。					
対象物件の名称等		対象物件の所在地		建築実務経験期間	
				年月～年月	年月数
〇〇小学校		〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇〇番地		R2年 12月～R4年 3月	1年 4月
				建築実務の割合	年月数
				100 %	1年 4月
⑭ 実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)					
〔 1C-01 〕					
小学校(木造3階建て、延べ面積3,000㎡)の基本・実施設計業務において、基本設計にて平面、立面、断面計画等の作成補助を、実施設計にて一般図(平面、立面、断面)の作成補助を担当した。					
対象物件の名称等		対象物件の所在地		建築実務経験期間	
				年月～年月	年月数
S 邸		〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇〇番地		R2年 8月～R2年 11月	0年 4月
				建築実務の割合	年月数
				100 %	0年 4月
⑮ 実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)					
〔 2C-01 〕					
専用住宅(木造2階建て、延べ面積140㎡)の新築工事において、工事監理補助を担当した。					

※建築実務を行った勤務先が複数あり、各々の建築実務経歴をもって免許申請を行う場合は、勤務先(自営業を含む)毎に実務経歴書を作成してください。

※⑩～⑬に記入する実務については、直近の実務から遡って時系列順に記入してください。

※①～⑬の項目を確認後、□にチェックを入れてください。

※記入例を参考にして、黒または青色の万年筆またはボールペンを使用(インクが消せるものは使用不可)し、楷書で丁寧に記入してください。

□チェック欄

□① 申請年月日

免許申請を行う年月日を和暦で記入してください。

□② 氏名

「一級建築士免許申請書」と同様に住民票上の本名を正確に記入してください。

□③ 勤務先

この実務経歴書に記入する建築実務を行った勤務先の名称を部課名まで正確に記入してください。部課がない場合は、勤務先の名称まで記入してください。

□④ 所在地

「③ 勤務先」の所在地を都道府県から番地まで正確に記入してください。

なお、免許申請時に当該勤務先が移転している場合は、移転後の所在地を記入してください。

□⑤ 在職期間の合計

「③ 勤務先」における入社から免許申請時までの在職期間とその年月数を和暦で記入してください。年号は、昭和を「S」、平成を「H」、令和を「R」というようにアルファベットの頭文字による表記としてください。(例：昭和60年の場合は、「S60年」、平成元年の場合は「H1年」、令和2年の場合は「R2年」としててください)

□⑥ 在職期間

「⑧ 建築実務の内容」で記入する建築実務を行った期間とその年月数を和暦で記入してください。年号は、昭和を「S」、平成を「H」、令和を「R」というようにアルファベットの頭文字による表記としてください。(例：昭和60年の場合は、「S60年」、平成元年の場合は「H1年」、令和2年の場合は「R2年」としててください)

※⑥⑦⑧では、入社から免許申請までに行った実務内容を記入するのではなく、記入例のとおり、⑩以降に記入する内容に即した、建築実務の内容、在職期間、地位職名を直近の業務から時系列順に記入してください。

□⑦ 地位職名

「⑧ 建築実務の内容」で記入する建築実務を行った際の地位職名を記入してください。地位職名がない場合は、記入漏れとの区別のため、「―(ダッシュ)」を記入してください。

□⑧ 建築実務の内容

「建築士資格に係る実務経験の対象実務の例示リスト」内における対象実務の例示①～⑭の中から選択して記入してください。

□⑨ 建築実務経験期間の合計

「⑭ 年月数」の合計の年月数を記入してください。

□⑩ 対象物件の名称等

物件の名称等を具体的に記入してください。建築実務が物件名で示せない場合は、行った建築実務の内容を簡潔に記入してください。

なお、業務上の秘密保持や個人情報保護の観点により具体的な物件名称を記入できない場合は、イニシャル等を用いて記入してください。(例：佐藤邸⇒S邸)

□⑪ 対象物件の所在地

「⑩ 対象物件の名称等」で記した物件の所在地を正確に記入してください。所在地が示せない建築実務である場合は、記入漏れとの区別のため、「—（ダッシュ）」を記入してください。

□⑫ 建築実務経験期間

当該建築実務を行った期間を年月まで和暦で記入してください。年号は、昭和を「S」、平成を「H」、令和を「R」というようにアルファベットの頭文字による表記としてください。

例：昭和 60 年の場合は、「S60 年」、平成元年の場合は「H 1 年」、令和 2 年の場合は「R 2 年」としてください。

また、実務を行った期間が 1 か月に満たない端数の日数が生じた場合は切り捨てて計算してください。

例：実務経験期間が 4 か月と 13 日の場合 … 4 か月

2 つの実務を連続して行った場合、1 か月に満たない日数が短い方は切り捨てて計算し、長い方は切り上げて計算してください。

例：A と B の実務が連続する場合

A の実務 4 月 1 日～8 月 10 日 …… 8 月分を切り捨てて 4 か月と計算してください。

B の実務 8 月 11 日～11 月 30 日 … 8 月分を切り上げて 4 か月と計算してください。

□⑬ 建築実務の割合

「⑫ 建築実務経験期間」に、建築実務の対象となる業務を行った割合を記入してください。

なお、建築実務に該当しない業務や在職中であっても実際に建築実務を行っていない期間がある場合は、その分の割合を除いてください。

□⑭ 年月数

「⑫ 建築実務経験期間」に「⑬ 建築実務の割合」を乗じて算出した年月数を記入してください。

(例：R 2 年 4 月～R 2 年 9 月 (6 ヶ月) × 50% = 3 ヶ月)

□⑮ 実務経験の対象となる業務の内容

[] 内には、「建築士資格に係る実務経験の対象実務の例示コード表」を参考に、実務経験の対象となる業務に対応したコード番号を記入してください。実務経験の対象となる業務の内容について、用途・構造・規模等を踏まえ、申請者が担当した作業内容がわかるように具体的に記入してください。

実務経歴書に記入可能な実務（8 つまで）を記入しても免許登録申請に必要な実務経験年数を満たしていない場合、末尾（8）の「⑮実務経験の対象となる業務の内容」欄に、下記の例文のように実務をまとめて記入していただいても結構です。

例：H〇年〇月からH〇年〇月までの〇年〇か月は、住宅の新築工事の工事監理補助業務を〇件担当した。